

地域で仲間と仕事をつくる

たのしごと

協同労働の目的別に紹介

町内会・自治会と共に地域を支える
地元で気軽に集える場づくり
仲間と作る・売るを楽しむ
支え合い、コミュニティの再生に挑む
里山を活かし、里山を守る

仕事おこし人インタビュー
「協同労働」マニュアル

事業 立上げまでの手順を詳しく解説
こんな働き方があったんだ！

地域と自分を笑顔にする働き方

こんな働き方があったんだ！

03	「協同労働」って何ですか？	協同労働団体のリーダー＆メンバーによる座談会
07	地域で協同労働を 始めました！	
11	私たち、「協同労働」を 始めました！	地域それぞれにある課題と未来
13	町内会・自治会と共に地域を支える	ケース1
15	地元で気軽に集える場づくり	ケース2
17	仲間と作る・売るを楽しむ	ケース3
19	支え合い、コミュニティの再生に挑む	ケース4
21	里山を活かし、里山を守る	ケース5
23	協同労働のホントの話 私達が、教えます！	
25	中間支援組織のみなさん、 協同労働のことをどう思っていますか？	全国の事例① 私たちガンバってます【鹿児島県霧島市編】
27	協同労働を始めてみよう！	29 地域のために働きたいなら どんな方でも参加できます！ 31 思い 33 仲間づくり／準備会 35 計画づくり 37 組織／手続き 39 お金 41 もの／拠点 43 伝える／協力 45 全国の事例② 私たちガンバってます【広島県呉市編】
47	最低月1回の会議設定	
49	合意の形成／継続のコツ	
52	全国の事例③ 私たちガンバってます【北海道恵庭市編】	
53	ここが知りたいQ&A	正しく知って不安解消！
55	資料 約款の例	



郷土愛を育む働き方



はじめに

少子・高齢化の進展に伴い、労働力人口の減少が懸念される中、元気で意欲にあふれる豊かな知識と経験を持った高齢者の方々は、社会活動の重要な担い手であり、その居場所と出番を創出することが、地域の活力を維持する上で重要な課題となっています。

こうした中、本市では、高齢者の働く場の創出や地域コミュニティの再生を図ることを目的に、平成26年度から「協同労働モデル事業」を実施しており、これまでに14団体、約150人の住民が起業し、地域の課題に応じた様々な事業に取り組んでいます。

協同労働は、企業に雇われて働く雇用労働とは異なり、住民が個々の生活環境や価値観に応じて、自分の地域のために、仲間と共に働き、成果を分かち合うという、「郷土愛」



広島市長
松井 一實

と「和」を追求した新たな働き方として、また、コミュニティ再生のツールとして大きな可能性を持っています。

この協同労働の取組を加速化するため、この度、起業に必要な基本情報・ノウハウのほか、これまでに事業化した取組やその成果等を盛り込んだマニュアルを作成しました。

このマニュアルが、皆様が地域課題の解決に取り組むきっかけとなるとともに、人生百年時代を迎える中、多くの方の生きがいづくりや、自分に合った働き方・社会参加の方法を見つけていただく一助となれば幸いです。

「協同労働」って何ですか？

協同労働は、まだまだ社会で役立ちたい、これまでの経験を還元したい、仲間と共に働きたい、という思いを活かすこれからの働き方です。地域が抱える課題に取り組んだり、地域の魅力を発見したり、その形はさまざまです。

地域の課題を仕事として解決

協同労働では、仲間とともに地域の課題解決を目指します。地域が抱える課題を地域の資源を活かしながら、一人ひとりが主人公となって協同の力で解決していきます。課題の解決には多くの労力と時間が必要ですが、仕事として継続することで解決を目指します。

また協同労働では、住民や地域団体との関係を築き、地

域のさまざまな思いやアイデアを事業に活かすことにより、一方的なサービスの提供に留めず、地域の人と協力をしながら活動をしていきます。全員が役割と責任を担うことで主体性ややりがいを生みだし、生きがいの創出や地域の活性化に繋がっていきます。

会費ではなく「出資」による資金づくり

協同労働の大きな特徴の一つに、全員で経営に参加し運

営するという考え方があり、全員が等しく責任を負います。そのためにも、みんなで話し合って決めた額の「出資金」を出し合い、事業の運営に必要な資金を出資金や寄付金等でつくり出します。出資金は一口いくらかという設定をしますが、多く出資している人の権限が大きくなることはありません。

また、協同労働では地域から協力を募ることもあり、地域や利用者と意見を交わしながら事業内容、料金設定を考え、

計画を立て、収益が生まれる事業に成長するような活動を目指します。

全員が主体的に関わる仕組み

よりよい取り組みにするためには、地域や利用者の声に応じた内容であると同時に、運営している自分たちにとってもよい環境を整えることが大切です。年齢、性別、経験、障がいの有無、介護や子育て中など、人には違いがあります。仲間と想いや考えを出し合い、

どのように進めるか話し合う場を多く持つことで、それぞれが無理なく続けられる働き方を自分たちで決めることができます。

スムーズな運営のためにリーダーを選出しますが、リーダーに運営を任せっきりにせずお互いに協力しあう体制をつくりましょう。全員が「出資をし」「経営に参加し」「働き」、将来のことも考えながら計画を定めて取り組みます。

働き方の特徴

- ・全員で出資・経営・労働を行う
- ・1人1票の原則
- ・全員の意見を必ず確認し、多数決ではなく全員一致での決定を目指す。
- ・出資による資金づくり

協同労働のしくみ



株式会社のしくみ



河津川プロジェクトでは、地域にたくさん残る耕作放棄地の活用が活動の中心です。シャクヤクを収穫後、次の作業のためみんなで畝を作ります。



①ボランティアで出会って意気投合。志が同じ仲間に出会ったのも財産です。②防災の意識が高まり、今では地域全体の取り組みになっています。③カフェサロンをオープンする前に、プロからコーヒーの淹れ方を学びました。④サロンで食事をしておしゃべりすることが元気の源になっています。

協同労働
実践団体の
皆さんに
聞いてみました

「協同労働」でやってみてどうですか？

Q1.協同労働を活用した一番の理由は？（いずれか1つ）

地域や利用者と協力し、課題に柔軟に応じる体制を築きたかった 3団体
継続・発展できる組織を作りたいと思った 2団体
仲間全員が主体的に関われる体制が作りたかった（経営・役割・意識） 1団体
ボランティアや持ち出しではない取り組みにしたかった 1団体

Q2.協同労働を活用して良かったことは？（複数回答可）

仲間とよい関係が築けること 30人
やりがい、生きがいをより感じるようになったこと 24人
組織や事業の運営、働き方や対価など仲間で話し合い、決めること 23人
地域のニーズに柔軟に応じて事業を行うこと 22人
主体的に考えたり取り組んだりしやすいこと 20人
自分ができる時間や内容で柔軟に働けること 14人
働いた対価を得る仕組みが作れること 9人
利用者やその家族とともに事業を進めること 9人
役割分担ができ、代表に責任が偏らないこと 8人
その他 1人

※その他の回答／自分の能力を色々と広げていき吸収ができる。この年齢でも挑戦できると感じている。

Q3.協同労働を活用して大変なことは？（複数回答可）

経営も労働も行う意識を全員が持ち続けること 24人
全員で運営の状況や課題を共有し方針を決めていくこと 14人
全員で事業を立上げ運営していくこと 8人
今まで責任がなかったことにも責任が生じること 7人
その他 2人

Q4.事業を始めたことにより、以前と比べてどんな変化がありましたか（自由記述、一部抜粋）

- ・利用者さんに喜んでいただくために、講座内容を毎回工夫するようになり関心領域が広がった。
研修の機会が増え生きがいを持てるようになった。
- ・事業をみんなで考えて決め、組織的に取り組むということがわかった。
- ・個々の意識が高まり前向きになった。プラス志向でよい。
- ・働くのが楽しい。
- ・やりたいという思いを一つひとつ現実のものにできている。
- ・自分自身がやりたいと思えることに対してある程度積極的に行動することが出来るようになった。
また、周囲の方々の影響によって自分自身を動かせることもあった。
- ・仲良くできている。仕事だけでなく遊びも楽しんでいる。
- ・全員が協力して作業できるので仕事が早い。
- ・人との出会い。
- ・いきいきとしたふれあいが以前よりある。
- ・多忙になった。異文化にふれ合えるチャンスが発生。交遊関係が広がった。
- ・地域のコミュニケーションがでやすくなったように感じる。
- ・毎日のスケジュールが入った。
- ・外出が増えた。
- ・頭を使うことが多くなった。
- ・人生で取得した知識を使う場面ができた。
- ・色々な情報が入ってくるのでとてもよい。
- ・今日は家から出る日という事で生活のリズムが少しだけ改善されたように思う。

助け合いながら
できる範囲で
自分を活かして
働きたい

広島市は60歳以上の方の新しい働き方「協同労働」を支援しています

広島市では協同労働を「60歳以上の生きがい就労」として位置付け、さまざまな形で支援しています。これまでの経験を協同労働で活かしてみませんか。

現役ほどでなくても
収入があれば嬉しい

新しい生きがい、働きがいを地域とともに
全員が出資し、全員が働き手となり運営を担う「協同労働」では、働く人一人ひとりが主人公になって地域に役立つ仕事をおこし、進めていきます。広島市では「協同労働」による事業立上げに対する支援を行っており、経験や意欲を地域の課題解決に活かすことを応援しています。働くことを通じて人と人とのつながりを取り戻し、コミュニティの再生を目指します。

市の補助金を活用して14の団体（平成30年3月現在）が生まれ、自分たちの想いやアイデアをみんなで話し合い、作物の収穫・販売、カフェサロンや講座の開催など多様な事業を展開しています。収益を得ながら、地域に役立ち必要とされる「協同労働」という働き方が参加する人の生きがいにつながっています。

地域の課題に取り組み
住んでいる人に
喜んでもらえる
ことがしたい





室本 けい子さん
タンポポのわたげ事務局
(安佐北区亀崎)
60才代／元NPO代表



松井 憲さん
復興交流館モンドラゴン事務局長
(安佐南区八木)
60才代／元会社員・現自治会
副会長



田山 幸子さん
ケサラ代表
(安佐北区可部町勝木)
60才代／元会社員



築城 秀美さん
河津川プロジェクトメンバー
(安佐北区白木町秋山)
60才代／元会社員



山縣 正昇さん
ひねもすようこそ事務局長
(安佐北区白木町井原)
50才代／元会社員



景山 テイ子さん
すまいるワーク会計
(安佐南区伴東)
60才代／元町内会会計



下田 彰さん
GO郷・まつむね代表
(安佐南区伴東)
60才代／元町内会
会長・自営業

協同労働団体のリーダー＆メンバーによる座談会
**地域で協同労働を
始めました！**
協同労働で取組む良さや今後の可能性についてお聞きしま
した。「協同労働で働く魅力とは何か？」協同労働で取り組
んでいる皆さんに語ってもらいました。

町内会・自治会、NPO、 ボランティア等との違い

田山（ケサラ） ボランティアアグ
ループで活動していた頃はモノや
お金の持ち出しが多く、続けるに
は限界がありました。グループが
崩壊しかけた時に協同労働という
仕組みを知り、これなら続けられ
るのではないかと思って。

景山（すまいるワーク） 自治会
の会計をしていた時、新築の集
会所が暫く経ってから汚れ始め
たことに悩んでいました。町内
の人たちに会館の清掃を呼び掛
けたがなかなかうまくいかな
かった。やらされ感ではなく責
任をもって掃除をしていく仕組
みが欲しかったんです。

し、ちょっとした困り事の相談
を受けることに繋がるのが願い。
下田（GO郷・まつむね） 自治会・
町内会では物事をきちつと決め
て動いており、やるべき事が山
積みで、里山を大切にしたいと
いう想いや、困っている一二人
だけのためにお金もなかなか
使えないですね。協同労働の
団体では想いを同じくするメン
バーが活動しているので、すぐ
に話し合い対処できるのがいい
ね。協同労働の団体が町内会・
自治会などとともに地域課題に
取り組めたら良いですね。
松井（復興交流館モンドラゴン）
土砂災害被災地で独居高齢者や、
家の前の通学路を行き来する子
ども達のために何ができるか模
索していた。同じ想いの方と協
同労働で、住民が気軽に足を運
べる場（お好み焼き店を併設）
を作ったんです。お好み焼きは
もちろん有料。オタフクソース
の講師から指導を受けて焼いて
いるので味は保証します！他に
も防災講座を開いたり。色々な
人が今まで仕事で培った経験や
スキル、ノウハウを持ち寄り、

室本（タンポポのわたげ）NPO
も経験していますが、協同労働は
所属のNPOと比べて、誰かが中
心となり他者が支えるという形で
はなく、メンバー皆が主体的に運
営に取組む姿勢が良いですね。

築城（河津川プロジェクト） 私
達は地域活動は未経験ですが、
地元有志で菊を10万円で仕入れ
育て、販売から始めました。毎
年好評で、売上で肥料や備品等
が購入できます。また、古代米
を稲から育て、刈り取り、干し、
宝船等わら細工を作り販売して
います。やりたい事や生産活動
をしながら、仲間で楽しく生き
がい就労ができれば良い。それ
が地域の魅力になればなお良い

地域で必要と思う事を行動に起
こしやすい組織を作りたい。起
生きがい就労であれば関われる
きっかけややりがいも増える。
だから協同労働を始めたんです。
景山 地域で細くても長くでき
る仕組みを作っておくことは必要
有料にするのも利用者は頼みやす
いとよく聞くし。ただ、高齢者の
生きがい就労として取り組んでい
るので、若い人が自立できるとい
う働き方ではなく半分ボランティア
的な動きですね。
室本 ボランティアではお金は
頂けないけど、協同労働では料
金を設定してやりとりができる
そうやって利用する人と活動し
ている人とで次に繋がるお金や
活動を作っていく。
景山 一枚百円のチケット制（内
容により枚数が異なる）で困り
事相談を始めてすぐに依頼がき
きました。行政に頼るより、柔軟
な対応ができますよ。将来の不
安から住宅団地を離れようとし
ていた老夫婦から、これで安心
してこの団地で暮らしていける
と言われたんです。
田山 それは凄い！

スタッフも利用者も無理せず 楽しむことが長続きのカギ

室本 時給900円で生活支援事業を行う場合もあるが、サロン事業では時給1000円のこと。赤字を出さないようにと仲間で決めたことだから文句は出ません。今も有償ボランティア的ですが、もう少し時給を上げるために質を落とさず利用する人を増やす努力をしようと話している。代表や事務局だけではなく、仲間全員の責任であることを自覚して動いています。

山縣（ひねもすようこそ） サロンの利用者を多くしようと事務局から話している？

室本 団体の仲間だけでなくサロンの利用者とも話していますよ。利用者もサービスを受けるだけではなく、ともにこの場所を継続するために考え協力してくれる。そこから活動に興味を持ち共感し、ともに働く仲間になる人も出てくるし。サロンの場で困り事支援の依頼がきたり、それを誰が受けるかの話し合いをしたり。そういった依頼に応じようと、うちのサロンの利用者には男性が多いのも特徴ですね。

築城 地域の人から困り事の支援依頼があれば応じられる事は応じたい。例えば高齢者一人となった方の出荷作業や木の伐採の手伝い等を頼まれて快く皆で応じたり。その時も無

料では頼みにくいと言われ、話し合っただけで有料にしました。

室本 築城さんのところは、「トム・ソーヤの冒険」に出てきそうな小屋もあって楽しい。冒険に出てきそうな小屋もあって楽しい。冒険に出てきそうな小屋もあって楽しい。冒険に出てきそうな小屋もあって楽しい。

築城 楽しまないとは続かない。拠点ではピザ窯や鉄板があり大人の基地、隠れ家みたいなんです。
景山 へえ、行ってみたい。今後のことを考えると60歳代から70歳代になり、その年齢で出来る方法、新たな仲間を引き継ぎやすく楽しめる環境づくりは必要ですね。

町内会↓広島市↓業者ではなく 町内会↓住人という流れが理想

下田 うちアパート等もある地域で自治会・町内会加入率は約56%。町内会からゴミ箱の修理や掲示板づくり等を請け負ったことがあります。

松井 私の地域の町内会・自治会は小規模で、集まる会費が少なく祭りを運営するまでには至らない。小規模の町内会・自治会を手助けする仕組みやグループがあったら良い。大規模であればそういう仕事も依頼できるかもしれないが小規模だと難しい。自治会・町内会単位だけでなく、地域のニーズに応じる仕組みが必要だと感じている。

下田 例えば公園管理のような仕事は市が業者ではなく我々のようなところに委託してく



ご近所の方が作った農作物等を販売する「GO 郷市場」。新鮮な野菜が並びます。



みんなでご飯を食べることが元気の素。ここが出来るまでは外に出る機会が少なかったという方も多く、サロンが生きがいにも役立っています。他の協同労働との交流も活発です。



「トム・ソーヤの冒険」に出てきそうなメンバー所有の作業所が拠点。ここで定期的なミーティングを開催しています。ワラは古代米の稲を干したもので、宝船やしめ縄飾りに使います。

郷土愛ですよ。自分たちの 地域を自分たちで 守れるようにしたい

れたら地域で生きがい就労を生む機会が増える。そこから新たな取り組みも生まれる。町内会・自治会の規模の違いでできないところがあるため、協同労働の団体がそのような仕事を受けることで可能性は広がると思う。

景山 そうですね。町内会・自治会は仕事が増えると負担になるかもしれない。

下田 我々なら仕事があると地域のために働けるやりがいもあるし、仕事の後に仲間と「飲めるぞー」という元気にもなる（笑）。ボランティアも大切だが、地域の仕事を作ること

も今後は必要になる。協同労働で地域課題を解決することで、自分たちの地域を自分たちで守れるようにしたい。郷土愛ですよ。

山縣 うちには障がい児者支援をしていて、地域の支援機関にやっていることを伝えていると、例えば地域包括支援センターから声がかかったなど新たな動きも生まれています。

景山 地域の団体と連携し、少しずつ試しながら協同労働で取組む方が良いことは何か、どうしたら地域のための仕事を生み出せるかが今後の課題になってくるでしょうね。

2014-2017

真正面

東区福田

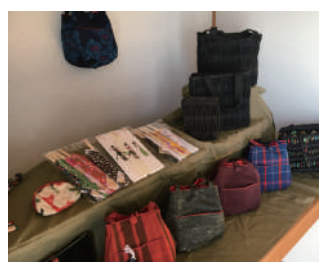
■活動内容
・耕作放棄地の活用による農作物の生産・販売および交流機会づくり
・花植えや里山ベンチの設置等の里山景観づくり

■構成員／4人
(男2・女2)



コミュニティカフェ「夢咲庵」

安佐南区上安



■活動内容
・井戸端サロン(手作り作品展示販売、野菜販売・おりづるセットの製作、納品の作業パートナー(おりづるプロジェクト)生活困りごと支援

■構成員／5人
(男1・女4)

サロンド・ワーク彩

佐伯区内南



■活動内容
・カフェサロン
・野菜市の開催
・困り事支援
・他の町内会と連携し集会所の清掃や維持管理

■構成員／8人
(男2・女6)

元気で楽しい東山をつくろう会

東区東山

※愛称：東山ふれあいの街

■活動内容
・居場所づくり(カフェサロン)
・東山マルシェ
・困りごと支援(パソコン修理など)
・環境保全事業(法面に繁茂する樹木の伐採整備)

■構成員／18人
(男10・女8)



サンセットビューにのしま

南区似島



■活動内容
・サロン
・月1回程度、希望者には軽食などを提供
・地域活性化につながるものづくり事業(暮らしに密着した小物の製作と販売)

■構成員／6人
(男1・女5)

地域それぞれにある課題と未来

私たち、「協同労働」を始めました

広島市では平成26年度より主に60歳以上の方を対象に、協同労働の仕組みを利用した事業の立ち上げを支援しています。補助金を活用して立ち上がった14団体(平成30年3月現在)の皆さんに、協同労働を始めた思いや活動内容を聞きました。

GO郷・まつむね

安佐南区伴東



■活動内容
・サロン(パソコン教室、健康麻雀、宿題教室)
・健康体操
・困りごと支援(農作業や草刈、庭木の剪定、大型ゴミの搬送)

■構成員／11人
(男8・女3)

ひねもすようこそ

安佐北区白木町井原

■活動内容
・サロン(スイーツカフェ、絵画教室、ヨガ教室)
・障がい児者支援
・困りごと支援

■構成員／7人
(男3・女4)



河津川プロジェクト

安佐北区白木町秋山



■活動内容
・耕作放棄地の活用による農業(菊、古代米、にんにく、こんにゃくなど)
・古代米を使った菓細工の継承・販売

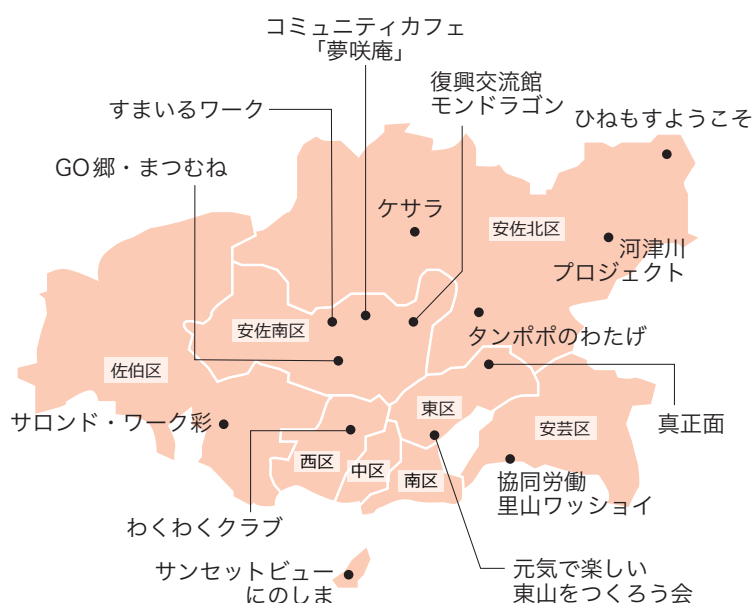
■構成員／9人
(男7・女2)

2017 (平成29年)

2016 (平成28年)

2015 (平成27年)

2014 (平成26年)



■活動内容
・認知症予防サロン
・多世代交流サロン
・一時預かりを担う子供の居場所事業
・家事支援事業

■構成員／4人
(男0・女4)



わくわくクラブ

西区己斐本町



■活動内容
・耕作放棄地の活用・物の収穫・栽培体験・農園カフェやマルシェなどの交流の場づくり
・大人と子供が自然とふれあうイベント・山林を活用したプーリーパーク

■構成員／26人
(男16・女10)

協同労働「里山ワッショイ」

安芸区畑賀

■活動内容
・平成26年に発生した土砂災害被災地での復興支援・伝承
・被災住民の心のケア、見守り支援
・コミュニティの再生、防災活動・地域イベント
・お好み焼きを販売

■構成員／18人
(男9・女9)



復興交流館モンドラゴン

安佐南区八木



■活動内容
・カフェサロン
・困り事支援
・オープンカフェなどの活動も計画中です。

■構成員／7人
(男2・女5)

すまいるワーク

安佐南区伴東

■活動内容
・サロン(幅広い年齢層が対象)
・スペースの貸出(住民や地域のグループの活動用)

■構成員／5人
(男0・女5)



ケサラ

安佐北区可部町



■活動内容
・おうちサロン
・困りごと支援(庭木の剪定や草取りなど)
・近所のD.R.に来てもらい健康相談も開催

■構成員／26人
(男10・女16)

タンポポのわたげ

安佐北区亀崎

町内会・自治会と共に地域を支える

町内会・自治会活動を支える取組みを協同労働で立ち上げた人たちがいます。地域との関わり方が多様化し、住民同士の新たなつながりもできています。

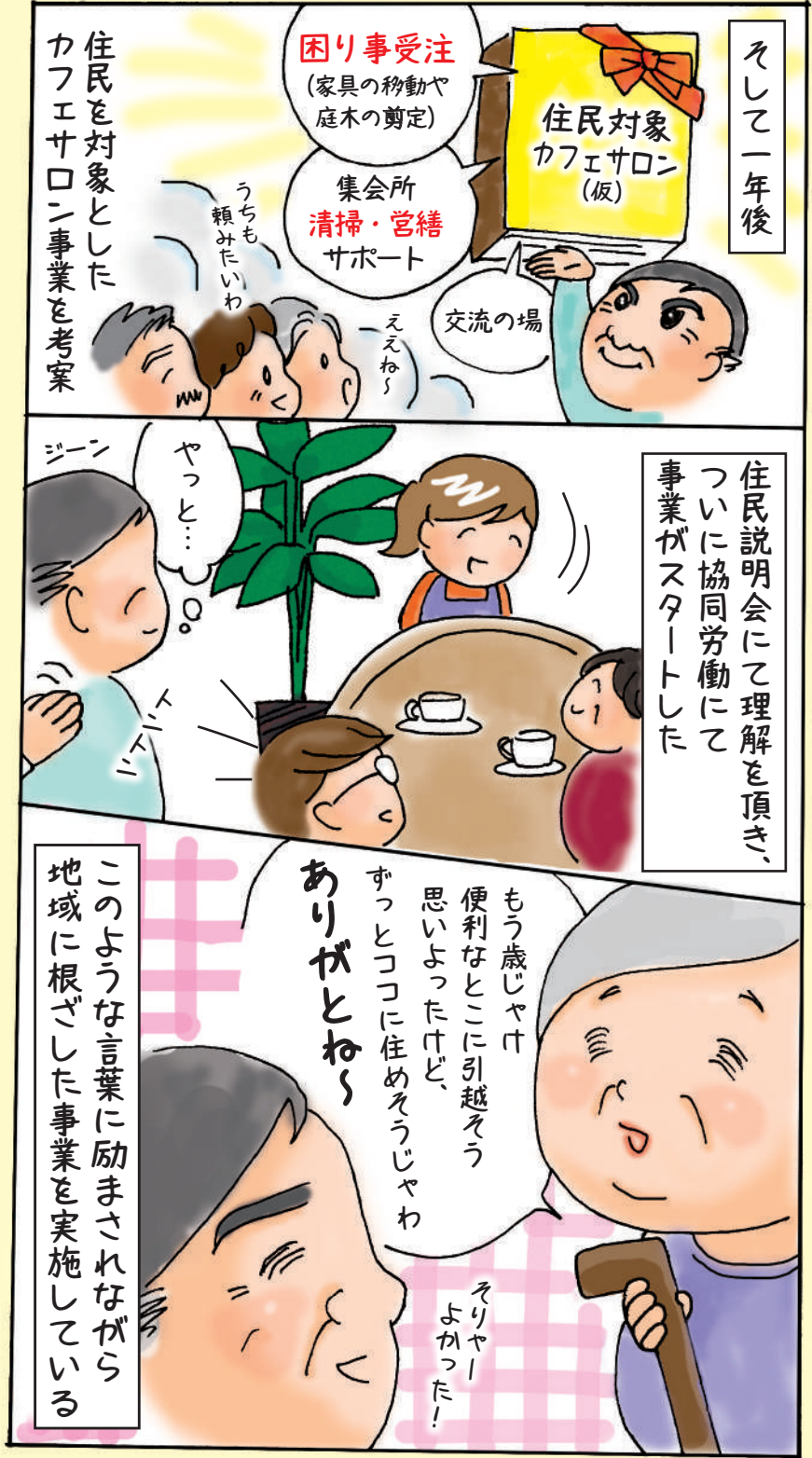
町内会・自治会の活動を支える事業活動

町内会・自治会は、住民の暮らしを支え、コミュニティを活性化させる重要な役割を担ってきました。しかし、

会員の高齢化や加入率の低下が進み、地域の課題に柔軟に対応することが難しくなってきた。このままでは住民の暮らしに影響が出る恐れがあります。

このような中、「協同労働」という形で組織を立上げ、町内会・自治会の活動を支え、地域課題に向き合おうとする新たな取り組みが始まっています。「すまいるワーク」では、新築された集会所の掃除の担い手に悩んでいた自治会から清掃業務を有償で請け負うことで継続的な活動につなげ、生きがい就労の場となっています。地域活動に必要な作業や住民の声への対応について、地元自治会と相談し適切に役割を分担することで、出来る

住んでいる地域がだんだん高齢化し、団地の未来に誰も関心を持たなくなったのを寂しく思っていたところ、自分たちの経験が活かせる方法があることを知りました。



ことから取り組んでいます。住民が主体的に地域に関わり、互いに支え合う環境が求められる中、ボランティアに頼るだけでなく、生きがい就労という取り組み方も選択できるようなれば、高齢者をはじめ様々な住民が自らのペースでやりがいを感じ、身近な地域のことに携わりやすくなるのではないのでしょうか。協同労働の団体は、町内会・自治会、社会福祉協議会、ボランティア団体等と連携・協力しながら、住民自らが安心して暮らし続けるための新たなモデルを提案しています。

実際にやってます！

すまいるワークのみなさん

すまいるワーク



町内会・自治会支援として、立上げ初年度は草刈機管理と月4回程度の集会所清掃を行っています。新しい集会所がこの地域に建てられたものの、十分な清掃ができていなかった課題を受けて始めました。

GO 郷・まつむね



地域の困りごと支援として、町内会・自治会からの依頼も受けています。住民から受けた要請に自分たちが出来る範囲で応じており、金額等も利用される方と話し合いながら決めています。

復興交流館 モンドラゴン



土砂災害のあった地域で「復興と伝承」をテーマにした拠点をつくりました。コミュニティの再生を目指した活動場所の提供、イベントの企画運営を行うとともに、住民が支え合う仕組みづくりや災害弱者への支援を進めています。

地元で気軽に集える場づくり

あったらいいなと思える居場所を集まるみんなでつくっています。
利用者だけでなく自分たちも「ここがあつてよかった」と感じる場所になっています。

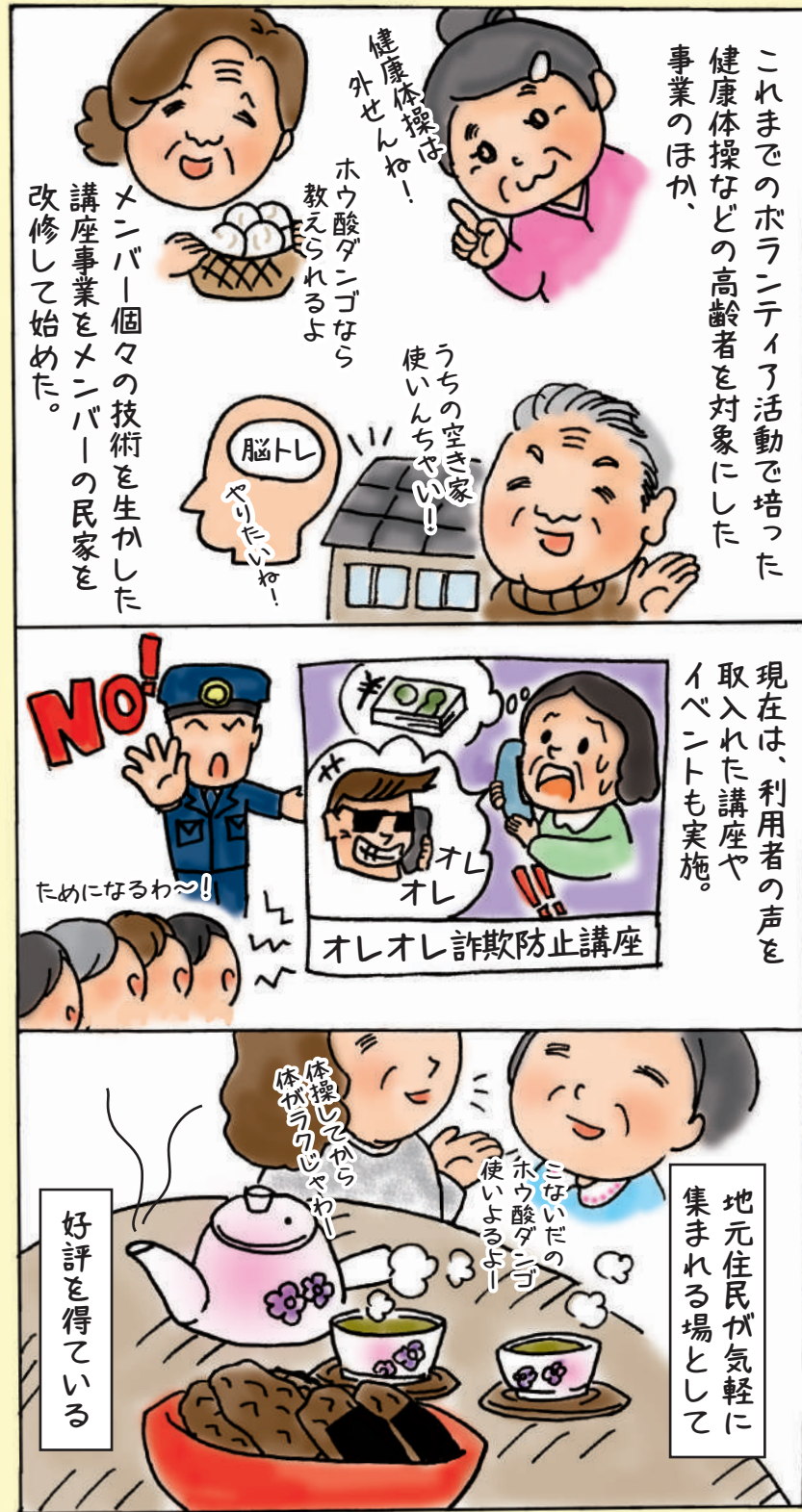
地域の人たちと
つくり続ける場所

代表の実家を活用することにしたものの、スタートまでに時間がかかりました。「いつできるの?」いろいろな人から声をかけられ、期待されていることを知り、俄然やる気が湧きました。



高齢化が進みコミュニティの維持が懸念されている郊外住宅団地は少なくありません。「ケサラ」では、近所同士で気軽に集まる場づくりを目指し、多世代交流サロンなどを行っています。以前はボランティアグループとして活動していましたが、各自の持ち出しが続き、限界を感じていました。参加者全員が主体的に関わり、事業収入を得て運営していく協同労働を知り、この仕組みが自分たちには合っていると感じ、「ケサラ」を立ち上げることにしました。

メンバーが所有していた空き家を拠点とし、地域の声に応じてそれぞれの特技や趣味を生かした講座を行うことで、定期的に交流サロンを開催しています。地域住民が趣味の教室やイベントを企画した際には、スペースの提供に



応じ、必要があれば預かり保育の相談にも応じています。当初は利用料を設定することへの戸惑いの声もありましたが、地域に必要な場所を地元のひとともに築いていきたいという想いや、実際の管理や事業運営に必要な経費であることへの理解が徐々に浸透することで、協力の輪が広がり、「ケサラ」があつて良かった」という声が聞こえるようになりました。町内会・自治会や地域包括支援センター等との関係を大切にしながら、使いやすい環境を整え、やりがいの持てる場所となっています。

実際にやってまーす!



ケサラのみなさん

ケサラ

郊外住宅団地の空き家を活用した拠点で、料理や健康、暮らしに関するあれこれを学ぶ機会も設けています。サロンが終わったらその日のうちにメンバーで振り返りを行い今後の活動につなげています。



GO 郷・まつむね

メンバーの自宅横でのスペースを井戸端サロンに活用しています。お茶とお菓子付でのおしゃべり、健康麻雀、小学生の宿題サロン、パソコン、カラオケなど曜日で分けて楽しい場所づくりをしています。



すまいるワーク

集会所で月2回コーヒーサロンを開催しています。全員でコーヒーについて学び、ブレンド作りも行いました。コーヒーの香り漂う心地よい場となり、予想を上回る参加となっています。サロンで得る地域の声から次の取組みを生む予定です。



タンポポのわたげ

メンバーや協力者の自宅の一部を開放した「おうちサロン」を2か所つくっています。1か所は月曜・金曜、もう1か所は水曜に開いており、ランチを食べたり、健康に関する相談や体操、健康麻雀をしたり、のんびりと過ごせるたまり場です。



ひねもすようこそ

井原市の駅前にあるメンバーの自宅を改修し拠点をつくりました。地域サロンとしてヨガや絵画教室、カフェやお出かけランチなど地元の高齢者も障がい者もともに楽しむ時間をつくっています。



仲間と作る・売るを楽しむ

収益を追い求めることが目的ではなく、地域のヒト・モノを活かし、再生そして活性化させる新たなヒントがここににあります。

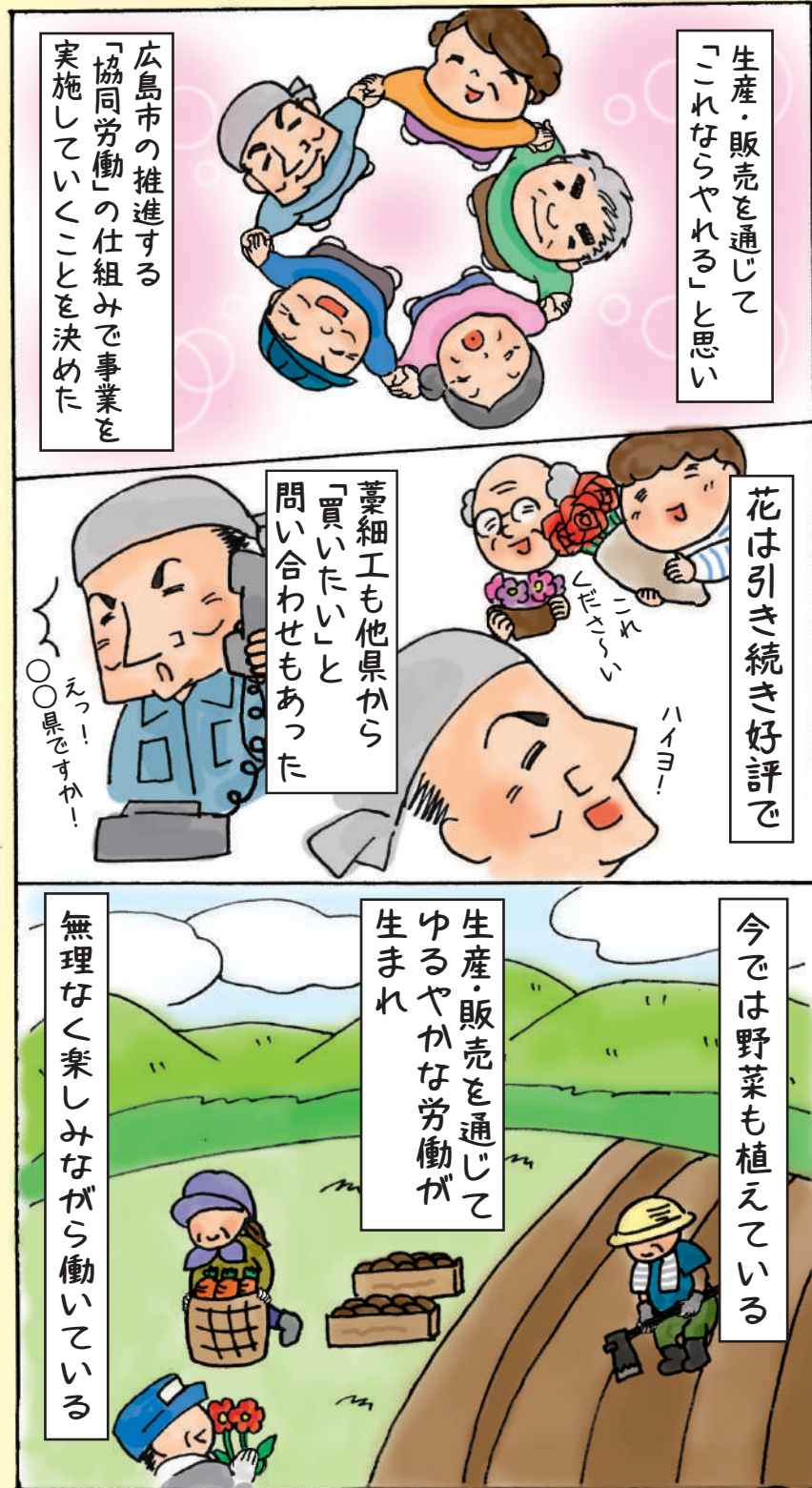
まだまだ元気で誰かのために役立ちたい、そんな思いが1つになったのが協同労働です。モットーは無理をせず、自分たちが楽しみながらやること。続けることが大事です。



できる範囲で仲間と楽しく働く

道草をした田んぼのあぜ、赤とんぼを追いかけて回した畑。後継者のいない耕作放棄地や遊休農地が増え、そんな思い出も記憶の中だけの風景になりつつあります。

故郷を守りたいという思いから地元の仲間とともに立ち上げた「河津川プロジェクト」は、試験的に花の栽培から始まりました。お盆に合わせて供花を販売したところ好評であったことから、事業を本格化するための基盤づくりを始め、自分たちに合った仕組みとして協同労働を選びました。一人では困難な作業も仲間と想いを共有し協力し合うことで、耕作放棄地が減り、生産販売につながる花卉（かき）栽培を広げることがやがていになっています。今ではこんなにやがて芋なども栽培するようになり、他地域から料理講座で使うから譲ってほしい



という相談も受けています。

また、地域で大切にされてきた薬細工に着目し、薬細工による宝船を作って都市部で販売することも試行錯誤しながら進めています。

どうにかしたいと思っていた田畑のこと、地域の魅力を伝えることを、お小遣い程度の収入が得られる規模で取組む中、地域の人から農作業の手伝いを有料で受けて欲しいと頼まれることもできてきました。拠点にはピザ釜やオーブンテラスもつくり「忙しくなったけど楽しい」と笑いあえる時間がここにあります。



復興交流館モンドラゴンのみなさん

河津川プロジェクト



菊、こんにゃくやニンニク等の栽培を行い、次はどうするかを仲間と話し合い試しながら進めています。全員が協力して農作業すると仕事が早いと実感しています。薬細工の材料となる古代米も栽培しています。

復興交流館モンドラゴン



住民同士が近所で気軽に寄れる場、お昼を食べながら顔を合わせられる場づくりを目指し、お好み焼きを販売する拠点をつくりました。お好み焼きの製造・販売に関する研修を受けてスタート、地域の人の働く場にもなりました。

支え合い、コミュニティの再生に挑む

安心してここで暮らし続けるために自分たちができることを話し合いました。その答えが協同労働による支え合い事業でした。

このままではダメだとみんな思っているはず。けど、不安に思っているだけでは何も進みません。勇気ある一歩が周囲を変え、地域を変えるきっかけになりました。



生涯現役だから
いきいきと取組める



防の促進、高齢者を見守り支え合う地域づくり、在宅医療・介護連携の推進などに取組んでいます。このような中、「おうちサロン」では気軽に困りごとを相談できる関係づくりや、地域包括支援センターと連携して生活支援を行っています。

自宅をサロンにと言ってくれるご近所との新たな出会いもありました。「平均年齢が高い私たちにはもの忘れやうっかりは当たり前。それを責めずに支え合うといきいきとできる。仲間の輪が広がる」、そんな思いが地域の中で少しずつ広がっています。



実際にやってまーす！

GO 郷・まつむねのみなさん

タンポポのわたげ

ご近所同士で支え合える関係、顔が見える関係を大切にしたいと高齢者が歩ける範囲で集える場づくりを目指し、「おうちサロン」を運営しています。立上げ当初は2カ所でしたが協力者も増え、少しずつでも増やしていきたいと考えています。



GO 郷・まつむね

農作業の手伝い、草刈り、草木の選定、買い物代行、掃除など相談に応じて行っています。ちらしには「得意は野菜作り・剪定」と案内しています。依頼されてもノウハウがなくできないこともあり依頼者と相談しながら具体的に内容や料金を決めています。



すまいるワーク

チケット1,000円(100円×10枚綴り)を販売し、暮らしのちょっとした困りごとのお手伝いをしています。例えば電球の取換えはチケット2枚、庭の草取りはチケット10枚から受けています。相談しながら安心して利用できるよう、サロンで関係づくりも行っています。



ひねもすようこそ

地域の障がい児とその家族を支えるため一時預かりやショートステイを行っています。寝たきりの子に生きがいという相談を受け、数名で訪問して季節の行事を一緒に楽しむ機会をつくるなど、相談に柔軟に応じています。



里山を活かし、里山を守る

子どもの頃にあった風景を守り伝えたい思いがあります。そのために地域をきれいに整備するだけでなく、継続して関われる仕組みや事業を生み出すことを考えています。

愛着のあるふるさとの風景を守り、次の世代の子ども達にも伝えていきたいと、活動をするうちに人の輪が広がりました。環境の大切さにも改めて気づいたのも収穫です。



「ここにあった堤と周りの野山は子ども達の楽しい遊び場だった」「高速道路の下のトンネルを抜けたら別世界」と住民たちが話す場所は、大人の背丈ほどもある高い草木が生い茂り、近づくことさえ難しくなっています。

「GO郷・まつむね」は、子どもから大人までが憩える場所づくりや、後世に残したい景観を取り戻すため、草刈りや山道の整備を少しずつ行っています。里山を再生するには時間と労力が必要であると共に、どう活用していくかのビジョンと取り組みも大切です。仲間を継続して取り組むために「協同労働」による体制づくりを行い、事業運営を始めました。共に考え動くなかで、「個人個人の意識が高まり前向きになった」「働くことが楽しい」「多忙になり交友関係が広がっ

すぐに結果が見えなくても継続して取り組むために



た」という声が聞かれます。今後は森林や環境、子どもの遊び場の活動をしているNPOや専門家に相談したり、若い世代と共にできる取り組みを考えたり、焦らずに進めていくことができればと考えています。

里山を活かし守る取り組みのなかでは、廃材の活用や、農産物の生産、交流場所の提供など新たな事業を検討している地域もあります。同じ想いを抱く仲間が継続して事業に取り組むために「協同労働」の活用を考える団体も出てきています。



河津川プロジェクトのみなさん

GO郷・まつむね



ここで遊んだ子どもの頃の思い出を語り合いながら、自分たちができる範囲で年に数回草刈りなどを行っています。桜の木は大きく育つ頃、地域の人たちが憩える場になっていることを目指して植えました。

河津川プロジェクト



地元名水の水飲み場を設置するなど、地域資源の魅力を伝えながら活用できる仕掛けを少しずつ作っています。今は仲間だけの取組みでも、続けることで地域の人に知ってもらえたり、新たな仲間と出会えたりします。



季節に合わせて
どんなメニューに
しようか考えるの
も楽しみです！



会食には毎回10名前後
が参加します。みんな
で作ってみんなで食べると
おいしさもひととき。食
後も楽しいおしゃべりが
続きます。



今までは食事をする
場所がなかったの
で、皆さんここが
きて喜んでいきます！

復興交流館モンドラゴン
地域を巻き込みながら絆を作る

畠堀 秀春 さん(60代)

被災者の就労支援にもなればという思いで、「復興交流館モンドラゴン」を立ち上げました。ここができるまではこの辺りには飲食店がなかったの、お好み焼き店ができたことは喜ばれています。まだまだ就労支援というまでは収益が上がっていませんが、なんとか生きがいにつながっていくようなればと思います。もう1つの目的は地域の減災・防災の意識を高めることです。自分の身は自分で守ろうと防災教室や防災訓練も行っていますが、広い地域をまとめるのは一苦労です。活動するにもお金がかかるのが課題です。もっと賛同者や参加者を増やして大きな輪に広げ、地域を巻き込みながらより強い絆を育んでいきたいです。



ケサラ
利用者の喜びにつながる活動を

中渡瀬 世史子 さん(70代)

拠点が決まらないのが一番大変でしたね。借りるにしてもお金がかかるしなどと迷いながら現在のカタチ(空き家になったメンバーの実家を利用)に落ち着きました。メンバーが通うには少し遠いという難点はあるものの賛沢は言えません。私の栄養士の資格を活かし毎週料理教室を開くほか、メンバーの一人がハーブコーディネーターの資格を持っているのでハーブ教室を開催するなど活動中です。他にも専門家を招いて認知症カフェを開いたり、高齢者の体力づくり支援士の資格を取得し、体操の指導もしています。資金的にはまだ悩みがありますが、「ここがあって良かった」という声に支えられて、世の中に少しでも還元できたらと思います。



他県から防災を学びに
来る人も、ここで好み
焼きを食べながら地域
の人と交流します。おい
しいお好み焼きにファ
ンも増加中。



オリジナルコーヒー
が大人気！カフェサ
ロンには30人もの
人が集まります。

協同労働のホントの話
私達が、教えます！



すまいるワーク
温かな団地の交流を再生

吉川 常雄 さん(60代)

団地ができて40年以上経ち、住んでいる人も高齢化し、どうにかなくてはと感じていたときに出会ったのが協同労働でした。カフェサロンでは団地の人達が集まる機会を作っています。あとは草むしりや障子の張り替え、スレート屋根のメンテナンスなど困りごと支援を行っています。有料ですが時給にしたなら300円程度、安いものです。「ありがとう」と言われるから頑張れますよ。団地の高齢化は致し方ないので、少しでも自分たちの力で活性化できればうれしいですね。



カフェサロン、困りごと支援のほか、集会所のトイレ清掃も行っています。



GO郷・まつむね
柿本保さん(70代)

経理を担当していますが、
やった事がないので悪戦苦
闘中です。生活支援事業
が堅調なのが嬉しいです。



河津川プロジェクト
永井富子(60代)

ひと声で集まれる場所(拠点)
と仲間が宝物。毎回、労働時間
の倍の時間の反省会(懇親会)が、
この活動の楽しみの一部です。



タンポポのわたげ
徳永孝雄さん(80代)

町のパソコン教室に通い、今
は月間スケジュールを作成す
るまでになりました。名刺も作
れるし、ワードもできます！



すまいるワーク
中村能彦さん(60代)

裁縫や寄せ植え等をしたり、団地在
住の「手作り名人」たちのワーク
ショップも開いています。色々あるの
で、もう少し多世代に来て欲しいです。



GO郷・まつむね
光井信子さん(70代)

これから新規立上げ団体の方は、
不安もありでしょうが、大丈夫。
私たちもそうでしたが、自然と団
体も自分達も育っていきます。



私たちからも
ひとこと！



NPOセンター講座

お互いの活動を通して福祉社会を実現

協同労働では協同出資・経営することで、目指す方向性を自らが決定する事ができ、働き甲斐を作ることが可能です。労福協が目指す「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」と、協同労働は目指す社会像は共通しています。それぞれの活動を通して新しい福祉社会が実現出来ることを期待しています。



広島県労働者福祉協議会

会長
伊丹 幸男さん

市民社会の構成メンバーとして連携を

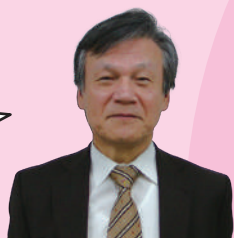
協同労働の働く人同士、お客さんや市民、地域、行政との協同で、解決に取り組む姿勢に大きな期待をしています。さらに雇用の場の確保、地域のためにも普及をしてほしいと願うとともに、これからも共に市民社会の構成メンバーとして連携していきたいと思っています。



特定非営利活動法人
ひろしまNPOセンター
代表理事 センター長
中村 隆行さん

地域コミュニティの再生に共感

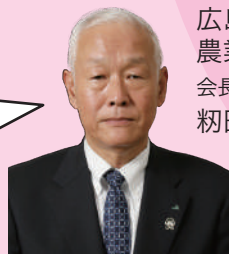
協同労働は「くらし・地域まるごと」対応かつ、郷土愛を育む働き方であり、コミュニティの復活に大きく寄与するものと考えます。当連合会のビジョンは、「誰もが安心してくらせる持続可能な地域コミュニティの再生」です。協同労働の実体と合致する点が多く、引き続き応援していきたいと考えています。



広島県生活協同組合連合会
会長理事
岡村 信秀さん

農業・農村の活性化にも必要な仕組み

農業人口に占める高齢者の割合は年々増加しており、中山間・島しょ部の人手不足は今後ますます深刻化すると想定されます。農業・農村の活性化や休耕田・コミュニティの再生など、地域課題の解決のためこれからさらに関わりを増していきたいと考えています。



広島県
農業協同組合中央会
会長
舩田 清さん

目的は同じ、地域の笑顔を増やすために

「シルバー人材センター」は、高齢者に「臨時的かつ短期的又はその他の軽易な業務」を提供することで、健康で生きがいのある生活の実現と地域社会の活性化に貢献する団体です。地域の課題を解消し、皆さんの笑顔を増やすという目的は同じです。お互い協力し合い頑張りましょう。



公益社団法人
広島市シルバー人材センター
理事長
滝澤 宏二さん

みなさん、
中間支援組織の
協同労働のことを
どう思っていますか？

全国に拡大することを期待

高齢者が働く意欲と能力を発揮できる「協同労働」という働き方は、これから全国へ拡大していくと思われます。現役を退いた後の活動の場の提供と、地域課題の解決が同時にできることが可能な「協同労働」には大いに期待しており、退職者組織を通じて、この取り組みを周知していきたいと思っています。



連合広島
広島地域協議会
議長
滋野 和義さん

人間らしい働き方を推進

「協同労働」は持続可能な地域社会づくりにとって、最もふさわしい仕組みです。人間らしい働き方として浸透させるために、「協同労働」による起業のマニュアルが必要だと考えています。現在、「協同労働の協同組合法」(仮称)の制度に取り組み、さらなる広がりを進めています。



ひろしま「協同労働」
推進ネットワーク
代表
吉富 啓一郎さん

これから必要とされる労働の形

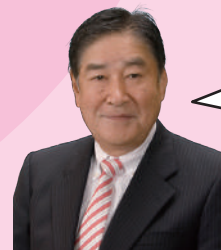
人間らしい働き方ができるオルタナティブな労働の形である「協同労働」は、これからさらに必要とされてくるでしょう。「ろうきん」は働く人の団体を会員とする協同組織の金融機関です。「協同労働」が法制化され、関わりがさらに高まることを期待しています。



中国労働金庫
理事長
石井 一清さん

時代に求められている事業

「協同労働」はボランティアと違い、地域の住民が自ら出資し、身近で困っている人を地域のつながりの中でお手伝いし、その対価として収入を得るという時代に求められている事業です。広島市には多くの地域で事業展開できるよう今後一層の支援を期待しており、広く浸透してほしいと願っています。



広島県経営者協会
会長
西川 正洋さん

人を大切にする活動を共に

社会福祉協議会の取り組みは、「自分たちのまちを良くしたい」というボランティア精神旺盛な市民とともに、「支え合いのあるまち」を創ることです。互いに目指すところは地域福祉の推進、人を大切にする活動の仕方も一致していると思います。これからも協同労働に取り組む団体を応援しています。



広島市
社会福祉協議会
会長
永野 正雄さん

ひろしま「協同労働」推進ネットワーク
「協同集会」



広島市社会福祉協議会
「助け合いフォーラム」分散会



シルバー人材センター